


島根県教育センター 浜田教育センター  
研究・研修スタッフ・共同研究



学校の自走をアシスト！  
自立した学習者を育てる  
校内支援プログラムの作成

# 発表の流れ

- 1 研究に至った背景と研究の目的
- 2 研究内容
  - ① アンケート調査の実施
  - ② 校内支援プログラムの開発
  - ③ 「ぴったん個ラボ・OJT！」の実際
- 3 研究のまとめと今後

# 個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に関する一考察



**ROUTE 3 「子どもが選択 最適な学び」**  
子どもが自分に最適な学びを自己調整できるよう、教師は様々な「学びの選択枝」を豊かに提供する。

**「学びの選択」とは？**  
得意な分野・領域の選択  
一人一人の子どもに、「得意とする分野あるいは領域」を選択する機会を保障することで、特長や進捗の速い中・遅い中での学びの充実を図ります。また、学習内容についても、自己の主体的な学びにつながります。

**ROUTE 2 「子どもの“学びの足跡”から個別最適な学びへ」**  
ICT (Studylog) を活用し、子どもの学びの経路や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に生かす。

**「Studylog」とは？**    **なぜデータ活用が必要なの？**    **どのように取り入れるの？**

**ROUTE 1 「ICTを活用して家庭学習の充実を！」**  
子どもたちが主体的に学ぶために効果的にICTを活用する。ICTも活用しながら家庭と学校の学びを往還させ、家庭での学びを充実させる。

**「ICTを活用する」とは？**    **どんな役割があるの？**    **どのように取り入れるの？**

**なぜICTを活用することが必要なの？**  
全ての子どもたちの可能性を引き出す。個別最適な学びを達成するために、学校教育の基礎的なツールとして、ICTは必要不可欠なものといえます。今、世界中の知識はインターネットを検索すれば簡単に取得できる時代で、むしろ教科書だけでは情報が獲得する情報は不足しています。知りたい学びたい知識の検索に答えることで、子供の主体的な学びにつながります。

**子供たちの可能性を引き出すICT**  
子供たちがICTを日常的に活用することにより、知りたいと身につくことで、自分で学習を進めたいという意欲が湧いてきます。やりたいことを追求できる環境ができてくことで、学習の楽しさや可能性が引き出されることにも期待する必要があります。

**知の検索にすぐに応えるツールとして**  
\* 知りたい！ 辞書としての役割  
インターネットで知りたいことを調べることができ、知りたい検索に答えます。  
\* 見たい！ 友だちの意見をみる相話の役割  
ロイノートやJamBoardなど、学校全体に一人一人の意見が発表でき、友だちの発表した意見をただでいい！ 考えも深まるとして「見る・知る」ことができます。得意の意見を一つ一つで発表することも可能です。

**多量の記録・記憶を持ち続けるツールとして**  
\* まとめ！ フォイルとしての役割  
データに打ち込んだり、スライドにまとめたりなど、自分が分かりやすい形で保存することが可能です。写真で記録したり、記録簿として有効です。  
\* 振り返り！ 自習ノートの役割  
記録として様々なデータが保存してあれば、新年度で復習を思い起こすことができます。振り返ることが難しくかつ立体的な身ものなど、機会を通して確認できます。

**授業の学習とつなげる工夫を！**  
家庭学習を充実させるためには、授業の学習とつながるように変換していくことが大切です。左のように授業で活用したデータを家庭学習で使用する準備を考慮してみましょう。  
\* 分からないことを振り返る  
ICT端末に保存して置いたデータを活用すれば、その日の授業が振り返りやすい学習になります。データを印刷・活用しながら、自分の考えをまとめる、正解を導くための問題を行う、なども可能となります。  
\* 学習や授業準備に活用する  
事前に準備、生活の中で発見したことなどを撮影して授業に向かうなど、ICT端末をつまぐ活用した場面なども考えられます。授業を学ぶ授業に活用することも可能です。  
ICTをどこで入れるか！  
\* 家庭学習でICTを活用しよう！

**様々な場面でデータ活用の例**  
\* ICTを活用した子供たちの学習活動を振り返る  
子供の活動をその場で見取り、授業に反映させることができます。  
\* 授業を振り返り、子供の学びの成長をチェックする  
\* 授業内の子供のデータが一元化され、学年や授業の振り返りができる。  
\* 子供の興味や得意な領域を把握し、授業の準備や指導に活かす  
\* 授業で活用したデータを振り返ることで、スムーズに振り返りができる。  
\* 授業中や授業後のデータを活用して、授業の振り返りや学習の振り返りを行うことができる。

**まとめ**  
より、学習履歴（スタディ・ログ）等を記録・分析・活用すること  
教師の授業と結び、授業がより見直しを促し、新たな学習方法を  
する等の効果的活用が期待されます。

**個別最適な学びの問題**  
個別最適な学び、自分から学びたい分野・領域にこそが  
得意な分野、得意な学習スタイルに合わせた学習  
環境を整えることが、個別最適な学びを実現する  
ための鍵となります。



## 研究の背景

学校からの要請・依頼が多い。

👉 学校が求めている情報であるということ。

その反面、要請が増えるということは送付した成果物だけでは研修を進めることが難しいとも考えられる。

一定時間を確保して研修することが難しいのではないか。  
研修事例等ベースの少ないところから研修を組み立てるのは負担ではないか。



# 教育センターの関わり、役割

これまで

スタートラインまで  
を整える



これから

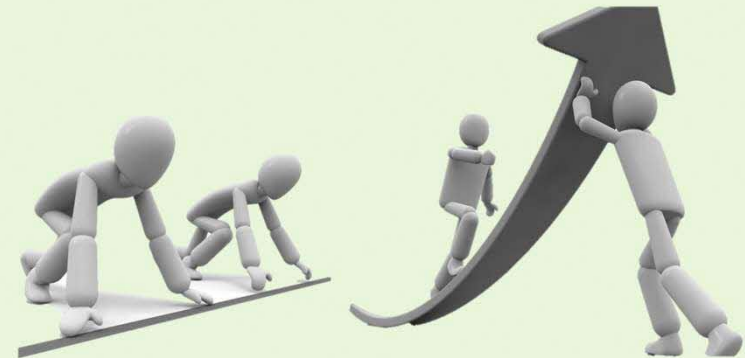
教育センターの課題

学校の課題・求めているもの

思った以上に  
成果物が届いていない

理解が難しい

一歩を踏み出すまで  
のサポート



## 研究の目的

各学校が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていくためのきっかけとなるように、令和4年度に配布した『今の学びをちょこっと変えルートマップ』と『充（10）実ナビゲーション』を用いた校内支援プログラムを提案する。

## 研究の内容 ① アンケート調査の実施



対象：浜田教育センターが提供する研修講座等に参加した教職員（n=155）

質問内容：

- 浜田教育センターが作成した研究成果物を見たことがありますか。【研究成果物の閲覧経験】
- 学校が校内全体での個別最適な学びと協働的な学びを視点に入れた実践・取組をしていくためには、研究成果物の他にどんなものがあればいいと考えますか。【研究成果物以外に求める情報】
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めるうえで、実践へとつなげていく場合  
どういった課題を感じていますか。【進めるうえでの課題】
- 感じている課題を解決するためにどういった情報や資料が必要ですか。どういった情報や  
資料があれば参考にできますか。【課題解決に必要な情報・資料】

## 研究の内容 ① アンケート調査の実施

- ・ 浜田教育センター研究成果物の閲覧経験について、約75%の教職員が見たことがないと回答した。
- ・ 研究成果物以外に求める情報として、実践事例が多かった。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めるうえでの課題として、個別最適な学びの視点で子供の実態を把握することや、実態をもとに個別最適な学びの視点で授業設計することに対して、難しさを感じている傾向が強い。
- ・ 教材研究・教材準備をする時間を確保することに対して課題と感じる傾向が強い。
- ・ 課題に対して解決するために必要だと考えている情報・資料として、「実践例」を求める傾向が強い。

### 教育センターの課題

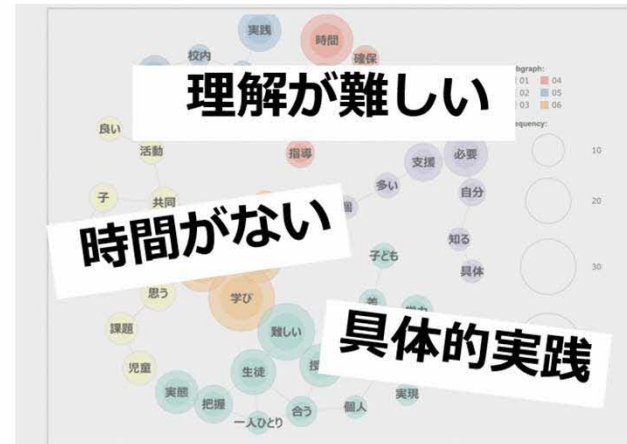
浜田教育センターが作成した研究成果物を見たことがありますか？

思った以上に  
成果物が届いていない

学校の自走まで、  
たどりついていない



### 学校の課題・求めているもの



動画でナビゲート  
校内研修プログラム

ニーズに応じる  
短時間の動画

充実した「ゲーショ」の活用  
具体的実践の収集

## 研究の内容 ②校内支援プログラムの開発

### ぴったん個ラボ・OJT!

写真や動画を取り入れたスライドを動画にしており、具体的に伝えることができる。

音声解説をつけることによって、出前講座と同程度の効果を期待できる。

繰り返し視聴可能で、それぞれ内容を区切るチャプターのパーツ化を図ることで、短時間で部分的に視聴することができる。

# ぴったん個ラボ・OJT！の構成

トータルで学ぶ

はじめに

理由と背景

個別量  
協働的  
その一  
な充実

教  
程の編成

実際の  
業場面から

実  
ビゲーシヨンの  
活用

実践に向けて  
協議

必要に応じて各チャプターを選択して研修できる！

研究に至った背景と目的

研究内容①

研究内容②

研究内容③

まとめと今後

**作成したプログラムの一部を紹介します。**

## 研究のまとめと今後



アンケート調査



- ・ 実践事例
- ・ 動画のパーツ化
- ・ アウトプットする場面の設定



校内支援プログラムの作成



# 研究のまとめと今後

これまで



スタートラインまでを整える



これから

教育センターの課題      学校の課題・求めているもの

思った以上に成果物が届いていない      理解が難しい

一歩を踏み出すまでのサポート



島根県教育センター 浜田教育センター  
研究・研修スタッフ共同研究

# 学校の自走をアシスト！ 自立した学習者を育てる 校内支援プログラムの作成

MISSION  
全ての子どもたちを  
自立した学習者に育てる！

「あはつた！」のための協働的な学び

## 協働的な学びとは？

「個別最適な学び」の成果を生かし、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら学び学習を進めていきます。一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組みわさり、考えが深化するような、よりよい学びを生み出すことを指します。

相手に伝わるように話すのって難しいな

同じ意見でも大切にしていることが違うことがあるんだな

自分とは違う考え方がたくさんあるな

自分の意見を聞いて新しい疑問がわいてきたぞ

これ、地域に役立つ意見かも！

正解は一つではないんだな



## 先生という仕事を魅せる！

## これからの教職員の姿

- ・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通して学び続けている。
- ・子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。
- ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている。

学校ならではの対話を通して「納得解」「他者理解」「社会性」を形成できる

子ども自身が自分の学びを獲得できる  
学習者中心のカリキュラムへ！

目指すのは主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善！

いつでもどこでも授業改善

ROUTE 5  
まず挑戦 すぐに改善  
AAR サイクル

ROUTE 6  
資質・能力の育成  
資質・能力の育成

学習者自らが課題を見つけ、さらに自ら解決する能力を高める学びの場(例・PBL)を提供します。

教師の役割